

木島櫻谷

山水障壁画特別公開

100年の眠りからさめた
木島櫻谷未公開50面の襖絵

Okoku Konoshima

Okoku Konoshima

34歳の木島櫻谷が、
日本各地のスケッチを投影して描いた、南陽院本堂の襖絵。
耶馬溪、飛騨川、明石の浜に春日野。
旅ののち自身のうちに浸透し醸成された印象が、
気品ある山水画として姿を表しました。

特別公開

《木島櫻谷 山水障壁画》 南陽院本堂（南禅寺塔頭）

【会期】

2022年11月3日（木・祝）～11月13日（日）

11月23日（水・祝）～12月11日（日）

月曜休

開場時間：10時～17時（最終入場時間 16時30分）

南陽院本堂《木島櫻谷 山水障壁画》特別公開

* 拝観料：1,000円、時間指定制 * 取扱：イープラス

プレミアムチケット
6,100円（税込）

特別展「木島櫻谷—山水夢中—」公式図録・今秋刊行される80年ぶりの櫻谷画集と各施設入館券（南陽院・泉屋博物館・櫻谷文庫）がセットになったプレミアムなチケット。

主催：公益財団法人泉屋博物館、BSフジ、ライブエグザム

問い合わせ：ティーエーエヌジー（平日10時～17時のみ） 電話：06-6850-7151
泉屋博物館 電話：075-771-6411



室中 溪山煙霧

京都の南禅寺塔頭南陽院は、明治43年(1910)に創建されました。開創は南禅寺法堂の再建に尽力した南禅寺派管長第四代高源室毒湛(豊田毒湛 1840~1917)で、その隠退後の居所として、篤信家の丹治直治郎により寄進されました。庭園は第七代小川治兵衛(植治)によるものです。

同年建立の本堂には全五室に木島櫻谷(このしま おうこく 1877~1938)による水墨山水図襖がみられます。櫻谷は、写生に基づく抒情豊かな画風で知られる、近代京都画壇を代表する日本画家のひとりです。彼は、師の今尾景年が毒湛の依頼により取り組んだ法堂天井画の瑞龍図制作に高弟として参加しています。

本堂障壁画は、部屋ごとに山海川など異なる景観を主題とし、時に雨や雪、月夜など気象や時間帯の変化もみせます。そこには、櫻谷が写生に訪れた日本各地の風景に基づき、実感のこもった親密な世界が広がります。微かに青みを帯びた透明感ある墨調で、繊細な淡墨やぼかしなどの確かな古典技法に、数多くの写生で得た素早い筆遣い、そして西洋画的な空間や陰影表現も潜ませた独自の山水画は、写生旅行を重ねた青年期の総括ともいえる代表作です。穏和で抑制の効いた山水画には、櫻谷の毒湛禪師に対する深い尊敬の念と、隠退後の安らかな日々を願う気持ちが込められているようです。

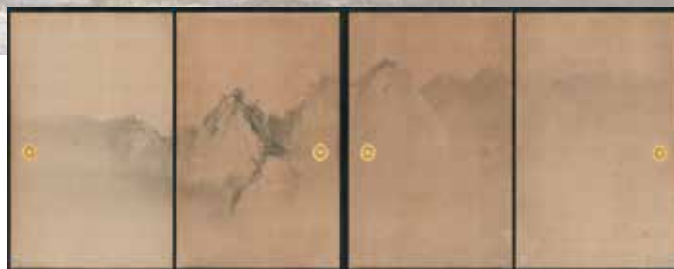
《木島櫻谷 山水障壁画》 南陽院本堂(南禅寺塔頭)



下間二ノ間 漁村晴望

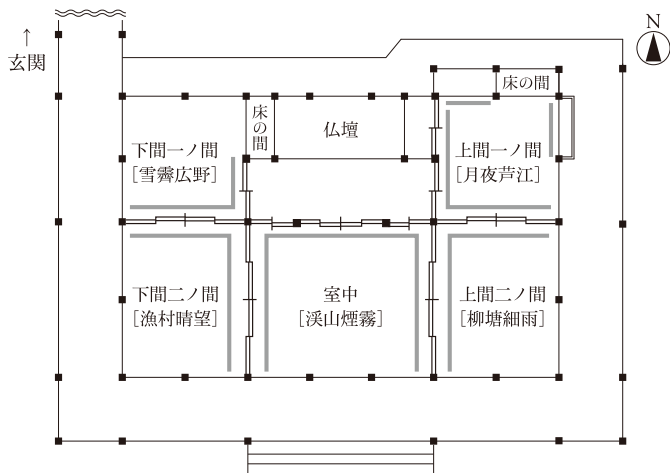
【木島櫻谷】

明治10年(1877)京生まれ。16歳で今尾景年に入門、円山・四条派の伝統画法とともに、東西の他流を幅広く研究、豊かな画才で20才過ぎから頭角を現します。明治40年(1907)日本初の公設公募展=文展では、日本画部門で最高賞を受賞、全国に画名を馳せました。大正元年(1912)第6回文展出品の《寒月》は、雪月夜の竹林の美と透徹した空気、狐の孤独を描いた不朽の名作。生前、竹内栖鳳の次世代リーダーと目され、写生に基づく抒情的な動物画で高く評価された櫻谷。しかしながら、昭和13年(1938)に没した後、その名は忘却されていきました。しかし2013年、没後75年の記念展(泉屋博古館)では予想を大幅に上回る反響で、作品の再発見が続き、展覧会が重ねて開催されました。卓越した筆技と構成員、写生に基づく理知的で洗練された世界は、海外からも注目を集めつつあります。



室中 溪山煙霧

南陽院本堂障壁画配置図



【南陽院】

総本山南禅寺の塔頭で、明治43年(1910)第4代南禅寺派管長豊田毒湛(高源室)が開創。通常非公開。毒湛は、明治42年には南禅寺法堂の再建を成し遂げました。櫻谷は法堂天井画制作を依頼された師・今尾景年を助けるなかで、障壁画の依頼を受けたのではないかと推測されています。



アクセスのご案内 【南陽院(南禅寺塔頭)】

京都市左京区南禅寺福地町86 京都市営地下鉄「蹴上駅」より徒歩5分

特別展

「木島櫻谷 一山水夢中」 泉屋博古館

2022年11月3日~12月18日
月曜休

【泉屋博古館】

京都府京都市左京区鹿ヶ谷下宮ノ前町 24
TEL : 075-771-6411
HP : <https://sen-oku.or.jp/kyoto>

京都市指定文化財

木島櫻谷旧邸 特別公開 公益財団法人 櫻谷文庫

2022年11月3日~12月4日の土日祝のみ公開

【木島櫻谷旧邸(公益財団法人 櫻谷文庫)】

京都府京都市北区等持院東町56
TEL : 075-461-9395
HP : <http://www.oukubunko.org/>



《万壑烟霧》右隻 明治43年 株式会社 千總 蔵